

変革する
地域建設業の未来

DXの推進で、進化

する建設業。

建設業はデジタル技術の活用で、生産性向上や働き方改革を目指し、DX(デジタル・トランスフォーメーション)を積極的に推進しています。

熱中症対策にもデジタル技術を活用

建設業のDXが推進される中、令和元年東日本台風(台風第19号)で大規模な土砂災害が発生した。丸森町の阿武隈川水系内川流域の地域を守る工事において、新しいデジタル技術が活用されている。熱海建設(本社・仙台市)の内川流域鷺の平川砂防堰堤ほか工事の現場では、地形などの3Dデータを取得する地上型レーザースキャナーを導入。工事現場の地形データを正確に把握し、設計や施工に活用している。「以前のように、重い測量機器を持って険しい山に登ったり、事前に掘削して地盤状況を確認したりする必要がなくなり、安全かつ効率的になった」と同現場代理人の高坂和希さんは話す。現場では、施工箇所の設計データなどに基

き操作を自動的にコントロールするICT(情報通信技術)建機の使用により、作業効率や精度もアップ。DXによる生産性の向上が労働時間の削減、休日の増加など、働き方改革にもつながり好循環を生んでいる。

熱中症対策においても、同社はデジタル技術を利用し、暑さ指数(WBGT値)計測器などの観測情報を一括管理するシステムや、個人の体温や脈拍などのバイタルデータを把握するウェアラブル端末で、作業員の体調をリモートで管理。深部体温を下げる足水なども用意し、熱中症防止に万全を期す。こうしたデジタル技術は、若手や女性などの多様な人材の活躍も後押しする。現場事務所で働く女性社員は新技術に着目しつつ、さまざまな経験を積む中、「設備などにも配慮があり、女性が働きやすい環境になっている」と話す。今、地域建設業の変革が加速している。



工事現場の技術者である同社工務部の阿部ゆなさん(左)と坂本真緒さん。今の建設業は、DX推進により若い人でも活躍できることを実感している

熱中症管理システム



最新技術が導入される建設現場

現在、砂防堰堤の工事に携わっていますが、建設業は橋・道路などさまざまな現場があり、日々新しい経験ができるのが魅力です。造るもののスケールが大きく、達成感もあります。高校と大学で土木を学び、東日本震災の復興の役に立ちたいと建設会社に入社。震災復興では、海岸堤防の復旧工事に従事しました。建設業は生活と命を守る仕事だと実感します。一般に、力仕事のイメージがある建設業ですが、実際は最新技術が導入され、ハイテクな産業です。DXの推進で働き方改革が進み、入社時よりも格段に残業時間が減りました。休日には、家族との時間や趣味などのプライベートを楽しんでいます。



内川流域鷺の平川砂防堰堤ほか工事では、古い堰堤を生かした工法を採用。環境配慮と生産性向上を最新技術が支えている

Interview
FileNo.24



熱海建設株式会社

工務部 高坂 和希さん Age.34
工事主任 入社12年目



ICT建機による掘削。設計データに応じ操作を自動制御する

一般社団法人 宮城県建設業協会

宮城県内に本社を有する約250社の地域建設業で構成される。建設事業を通じて、地域ならびに住民の安全・安心で快適な暮らしを支える活動を展開。2014年3月に災害対策基本法に基づく指定地方公共機関に指定された。魅力ある産業づくりに向けたDX・GXの推進等によって、生産性向上や働き方改革に取り組んでいる。



<https://www.miyakenkyo.or.jp>

取材協力 / 一般社団法人 宮城県建設業協会
企画・制作 / 河北新報社営業局
企画協賛

法定外労災補償制度 建設共済保険

☎ 0120-913-931
受付時間 午前9:00～午後5:00(土日祝を除く)



公財団法人 建設業福祉共済団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門等平タワー 11階

■ 取扱機関: (一社)宮城県建設業協会